

## ◆年間指導計画例 【1年】

領域〈系統〉教材名 ページ数・配当時数 (他は他教科との関連)	学習指導要領との 対応 (下線は重点)	学習目標	学習活動例 (*は指導上の留意点や別案)	評価規準例 (◎は重点)
(4月 5時間)				
読む〈詩(巻頭詩)〉 風の五線譜  巻頭 1時間	[ <b>知技</b> ] (1)オ [ <b>思判表</b> ] C(1) <u>イ</u>  ㊦ C(2)イ	・詩の意味を捉え、読み方を工夫して音読する。	1 全文を通読し、内容を大まかにつかむ。 2 詩の意味を捉えて丁寧に音読したり、群読に取り組んだりする。	[ <b>知技</b> ]・比喩、反復、体言止めなどの表現の技法を理解している。 [ <b>思判表</b> ] ◎「読むこと」において、詩に描かれた情景や心情などについて、描写をもとに捉えている。 [ <b>主</b> ]・進んで描写をもとに詩の情景を想像し、学習課題に沿って音読しようとしている。
読む〈言葉の学習〉 話し方はどうかな  P 14 3時間	[ <b>知技</b> ] (1)ウ [ <b>思判表</b> ] A(1) <u>ウ</u> , C(1) <u>オ</u>  ㊦ C(2)イ	・相手にとって聞き取りやすいように注意して話す。 ・文章の内容を捉え、話し方について考える。	1 タイトル下の問いかけ (P14) や学習手順 (P20) を確認し、学習の見通しを持つ。 2 手順① (P20) に取り組み、全文を通読し、適宜、漢字や語句を確認する。 * <b>資</b> 「学習を始める前に」 (P268~272) を読んで、ノート書き方や辞典の引き方などを確かめるのもよい。 3 手順②に取り組み、文章の内容を捉えて要点をまとめる。 4 手順③~④ (P21) に取り組み、発声練習をして、話し方に注意して文章を音読する。	[ <b>知技</b> ]・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨き語彙を豊かにしている。 [ <b>思判表</b> ] ◎「話すこと・聞くこと」において、相手に分かりやすく伝わるように表現を工夫している。 [ <b>思判表</b> ] ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。 [ <b>主</b> ]・進んで文章を読んで話し方について考え、学習課題に沿って、相手にとって聞き取りやすいように話そうとしている。
言葉〈日本語探検〉 音声の働きや仕組み  P 22 1時間	[ <b>知技</b> ] (1) <u>ア</u>	・音声の働きや仕組みについて理解する。	1 教材 (P22) を読んで、音声の働きや仕組みについて理解する。	[ <b>知技</b> ] ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。 [ <b>主</b> ]・進んで音声の働きや仕組みについて理解し、見通しを持って学んだことを話や文章の中で生かそうとしている。
1 言葉を楽しむ (4~5月 8時間)				

<p>読む〈言語感覚〉 詩の心——発見の喜び P 24 2 時間</p>	<p><b>[知技]</b> (1)ウオ <b>[思判表]</b> C(1) ウエ <b>(活)</b> C(2)イ</p>	<p>・詩に描かれた風景や思いを想像し、詩を音読して読み味わう。 ・詩を鑑賞し、表現の工夫などについて考える。</p>	<p>1 タイトル下の問いかけ (P24) や「てびき」の目標 (P28) を確認し、学習の見通しを持つ。 2 全文を通読し、内容を大まかにつかむ。適宜、漢字や語句を確認する。 3 設問①～② (P28) に取り組み、三編の詩について内容を捉え、音読して読み味わうとともに、文章の要点を理解する。 4 設問③に取り組み、「チューリップ」(P23) について鑑賞したことを話し合う。 *「チューリップ」のほか、巻頭の「扉の詩七編」から好きな詩を選んで鑑賞するのもよい。 *「言葉の力 詩を鑑賞する」を読んで、詩を鑑賞するときのポイントを理解する。 5 「振り返り」を読み、学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>[知技]</b>・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、詩を鑑賞することを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 <b>[知技]</b>・比喩などの表現の技法を理解している。 <b>[思判表]</b>◎「読むこと」において、目的に応じて場面と描写などを結び付け、内容を解釈している。 <b>[思判表]</b>◎「読むこと」において、詩の構成や表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 <b>[主]</b>・進んで詩の情景を想像しながら音読し、学習課題に沿って、表現の工夫について話し合おうとしている。</p>
<p>学びの扉／学びを支える 言葉の力〈文学的な言葉の力——表現する力〉 描写や表現技法を用いる P 29／P 242 1 時間</p>	<p><b>[知技]</b> (1)オ <b>[思判表]</b> B(1) エ</p>	<p>・表現技法を理解し、具体的な描写を取り入れて表現を練りあげる。</p>	<p>1 教材 (P29) を読んで、場面の様子を伝えるにはどう表現したらよいかを考える。 2 <b>[基]</b>「描写や表現技法を用いる」(P242～245) を読んで、描写や、比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現技法について理解を深め、具体的な描写を取り入れて表現を練りあげる。  *<b>[D]</b>この教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	<p><b>[知技]</b>◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。 <b>[思判表]</b>◎「書くこと」において、表現技法や描写の仕方などを確かめて、文章を整えている。 <b>[主]</b>・進んで描写や表現技法について理解し、学習課題に沿って表現を練りあげようとしている。</p>
<p>書く〈詩歌創作〉 小さな発見を詩にしよう P 30 3 時間</p>	<p><b>[知技]</b> (1)オ <b>[思判表]</b> B(1) エ <b>(活)</b> B(2)ウ</p>	<p>・言葉を選び、表現を工夫して、詩を仕上げます。</p>	<p>1 教材冒頭 (P30) の問いかけと目標を確認し、学習の見通しを持つ。 2 手順①～③ (P30～31) に取り組み、四行くらいの詩を作って読み合う。 *「言葉の力 表現を工夫する」(P31) を読んで、表現の工夫についてのポイントを確認する。</p>	<p><b>[知技]</b>・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。 <b>[思判表]</b>◎「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、詩を整えている。 <b>[主]</b>・表現を工夫することに粘り強く取り組み、学習</p>

			<p>*前の「描写や表現技法を用いる」(P29/基P242～245)で学んだことを生かして取り組むとよい。</p> <p>3 「振り返り」(P31)を読み、学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>課題に沿って詩を仕上げようとしている。</p>
<p>言葉〈文法の窓／文法解説〉 文法とは・言葉の単位 ——切り方変われば意味変わる</p> <p>P32/P250 1時間</p>	<p><b>[知技]</b> (1)エ</p>	<p>・言葉の単位について理解する。</p>	<p>1 教材(P32)を読んで、文の区切り方を考える。また、「考えよう」に取り組む。</p> <p>2 基「文法とは・言葉の単位」(P250～252)を読んで、言葉の単位について理解を深める。また、「問題」1～2(P252)に取り組む。</p> <p>*Dこの教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	<p><b>[知技]</b> ◎言葉の単位について理解している。</p> <p><b>[主]</b> ・進んで言葉の単位について理解し、学習課題に沿って学んだことを話や文章の中で生かそうとしている。</p>
<p>言葉〈漢字道場〉 活字と書き文字・画数・筆順</p> <p>P33 1時間</p> <p>他書写</p>	<p><b>[知技]</b> (1)イ</p>	<p>・活字と書き文字の違い、画数、筆順について理解し、漢字を文や文章の中で使う。</p>	<p>1 「活字と書き文字」(P33)を読んで、活字と書き文字の違いについて理解し、「問題」①に取り組む。</p> <p>2 「画数」(P34)を読んで、画数について理解し、「問題」②に取り組む。</p> <p>3 「筆順」(P34)を読んで、筆順について理解し、「問題」③に取り組む。</p>	<p><b>[知技]</b> ◎活字と書き文字の違い、画数、筆順について理解し、漢字を文や文章の中で使っている。</p> <p><b>[主]</b> ・進んで活字と書き文字の違い、画数、筆順について理解し、学習課題に沿って学んだことを文や文章の中で生かそうとしている。</p>
2 思いを捉える (5～6月 12時間)				
<p>読む〈文学一〉 飛べ かもめ</p> <p>P36 3時間</p>	<p><b>[知技]</b> (1)ウ <b>[思判表]</b> C(1) イオ 活 C(2)イ</p>	<p>・人物や情景を描いた表現に注意して、作品を読み味わう。</p> <p>・作品から読み取ったことをもとに、想像したことをまとめる。</p>	<p>1 タイトル下の問いかけ(P36)や「てびき」の目標(P40)を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <p>2 全文を通読し、内容を大まかにつかむ。適宜、漢字や語句を確認する。</p> <p>3 設問①～③(P40)に取り組み、場面の様子や登場人物の思いに注意して作品を読み味わう。</p> <p>*「言葉の力 人物や情景を描いた表現に注意する」を読んで、人物の心情や考えを捉えるための手がかりになる表現について理解する。</p> <p>4 設問④に取り組み、メッセージを想像し、紹介し合</p>	<p><b>[知技]</b> ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、文章を読むことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p><b>[思判表]</b> ◎「読むこと」において、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。</p> <p><b>[思判表]</b> ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。</p> <p><b>[主]</b> ・進んで人物の心情などに注意しながら読み、学</p>

			う。 5 「振り返り」を読み、学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。	習課題に沿って、想像したメッセージを伝え合おうとしている。
学びの扉／学びを支える 言葉の力〈文学的な言葉の力——解釈する力〉 文脈を捉え、伏線に気づく  P 41／P 238 1 時間	<b>【知技】</b> (1)ウ <b>【思判表】</b> C(1) イ  ㄥ	・場面の展開や登場人物などの描写に注意して、文脈を捉え、伏線に気づく。	1 教材 (P 41) を読んで、文章中の表現を手がかりにして、話の続きを予測する。 2 <b>【基】</b> 「文脈を捉え、伏線に気づく」(P 238～241) を読んで、文脈や伏線について理解を深め、場面の展開や登場人物の心情などを捉える。  * <b>【D】</b> この教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。	<b>【知技】</b> ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して文章を読むことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 <b>【思判表】</b> ◎「読むこと」において、場面の展開や登場人物の心情などについて、描写をもとに捉えている。 <b>【主】</b> ・進んで文脈や伏線について理解し、学習課題に沿って場面の展開や登場人物の心情などを捉えようとしている。
読む〈文学一〉 さんちき  P 42 4 時間	<b>【知技】</b> (1)ウ <b>【思判表】</b> C(1) イオ  ㊦ C(2)イ	・人物や情景を描いた表現に注意して、作品を読み味わう。 ・作品から読み取ったことをもとに、想像したことをまとめる。	1 タイトル下の問いかけ (P 42) や「てびき」の目標 (P 52) を確認し、学習の見通しを持つ。 *「飛べ かもめ」と共通の目標であり、前の学びを生かしていくことを確認するとよい。 2 全文を通読し、内容を大まかにつかむ。適宜、漢字や語句を確認する。 3 設問①～② (P 52) に取り組み、登場人物の人物像や心情に注意して作品を読み味わう。 *「言葉の力 人物や情景を描いた表現に注意する」(P 40) を参照し、ポイントを振り返るとよい。 *前の「文脈を捉え、伏線に気づく」(P 41／ <b>【基】</b> P 238～241) で学んだことを生かして取り組むとよい。 4 設問③に取り組み、人物の心情を想像して文章にまとめる。 5 「振り返り」を読み、学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。 6 「広がる言葉」(P 53) に取り組み、語感を磨き語彙を増やす。	<b>【知技】</b> ・様子を表す語句の量を増すとともに、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 <b>【思判表】</b> ◎「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。 <b>【思判表】</b> ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。 <b>【主】</b> ・進んで人物や情景を描いた表現に注意して読み、学習課題に沿って、人物の心情を想像してまとめようとしている。

			<p>*<b>資</b>「言葉を広げよう——様子を表す言葉」(P328～329)を見て、語彙を増やすための参考にするとよい。</p> <p>*この教材に加えて、<b>資</b>「そこに僕はいた」(P273～279)を読み、表現を手がかりに人物の心情を捉える学習を深めるのもよい。</p>	
<p>学びの扉／学びを支える言葉の力〈対話的な言葉の力——伝え合う力〉 相手の話を受け止め、引き出す</p> <p>P54／P246 1時間</p>	<p>【思判表】A(1) エ</p>	<p>・相手の話を引き出すための質問の仕方を理解し、質問しながら話の内容を捉える。</p>	<p>1 教材(P54)を読んで、相手の話を受け止め、引き出すにはどうしたらよいかを考える。</p> <p>2 <b>基</b>「相手の話を受け止め、引き出す」(P246～249)を読んで、相手の話を引き出すための質問の仕方について理解を深め、質問しながら話の内容を捉える。</p> <p>*<b>D</b>この教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	<p>【思判表】◎「話すこと・聞くこと」において、質問しながら話の内容を捉えている。</p> <p>【主】・進んで相手の話を引き出すための質問の仕方を理解し、学習課題に沿って、質問しながら話の内容を捉えようとしている。</p>
<p>話す・聞く〈聞く〉 話を聞いて質問しよう</p> <p>P55 2時間</p>	<p>【思判表】A(1) エ</p> <p>④A(2)ア</p>	<p>・メモを取ったり、質問したりしながら、話の内容を捉え、考えをまとめる。</p>	<p>1 教材冒頭(P55)の問いかけと目標を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <p>2 手順①～④(P55～57)に取り組み、よりよい質問を意識して会話をし、聞き取ったことをもとに相手のことを紹介する。</p> <p>*「言葉の力 メモを取り、質問する」(P57)を読んで、話を聞いてメモを取ったり的確な質問をしたりするためのポイントを確認する。</p> <p>*前の「相手の話を受け止め、引き出す」(P54/<b>基</b>P246～249)で学んだことを生かして取り組むとよい。</p> <p>*<b>資</b>「メモの取り方の例」(P269)を見て、メモを取る際の参考にするとよい。</p> <p>3 「振り返り」(P57)を読み、学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>【思判表】◎「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。</p> <p>【主】・メモを取ったり質問したりしながら話の内容を捉えることに粘り強く取り組み、学習課題に沿って考えをまとめようとしている。</p>
<p>言葉〈日本語探検〉 接続する語句・指示す</p>	<p>【知技】(1)エ</p>	<p>・接続する語句と指示する語句の役割</p>	<p>1 教材(P58～60)を読んで、接続する語句や指示する語句が、話や文章の中でどのように使われるのかを</p>	<p>【知技】◎指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。</p>

る語句——無重力空間 を楽しもう  P 58 1 時間		について理解する。	大まかにつかむ。 2 「まとめ」(P58～60)を読んで、接続する語句や指示する語句の役割について理解する。適宜、漢字を確認する。	【主】・進んで指示する語句と接続する語句の役割について理解し、見通しを持って学んだことを話や文章の中で生かそうとしている。
3 分かりやすく伝える (6～7月 15時間)				
読む〈構成・展開〉 オオカミを見る目  P 62 4 時間	【知技】(1)ウエ, (2)アイ 【思判表】C(1) アエ  ㊦ C(2)ア	・段落の役割や段落どうしの関係に着目して文章の構成を捉え、内容を読み取る。 ・文章の書き方の工夫について考える。	1 タイトル下の問いかけ(P62)や「てびき」の目標(P68)を確認し、学習の見通しを持つ。 2 全文を通読し、内容を大まかにつかむ。適宜、漢字や語句を確認する。 3 設問①～②(P68)に取り組み、文章の構成を捉え、内容を読み取る。 *「言葉の力 段落の役割や段落どうしの関係に着目する」を読んで、段落の役割や関係について理解する。 4 設問③に取り組み、文章の書き方の工夫されているところについて話し合う。 5 「振り返り」を読み、学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。 6 「広がる言葉」(P69)に取り組み、語感を磨き語彙を増やす。 *㊦「言葉を広げよう——印象を表す言葉」(P329～330)を見て、語彙を増やすための参考にするとよい。  *この教材と併せて、㊦「『常識』は変化する」(P280～283)を読み、文章の書き方や、筆者のものの見方を比べてみるのもよい。	【知技】・印象を表す語句の量を増すとともに、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【知技】・指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。 【知技】・原因と結果、考えと根拠など情報と情報との関係について理解している。 【知技】・比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。 【思判表】㊦「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と考えとの関係などについて叙述をもとに捉え、要旨を把握している。 【思判表】㊦「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。 【主】・進んで段落の役割や段落どうしの関係に着目して読み、学習課題に沿って、文章の書き方の工夫について話し合おうとしている。
書く〈伝達〉 調べて分かったことを伝えよう——「食文化」のレポート  P 70	【知技】(2)アイ 【思判表】B(1) アイ  ㊦ B(2)ア	・ふだんの生活の中からテーマを決め、調べて分かったことを整理する。 ・調べて分かった事	1 教材冒頭(P70)の問いかけと目標を確認し、「学習の流れ」を見て、見通しを持つ。 2 手順①～⑤(P71～76)に取り組み、調べて分かったことを伝える「『食文化』のレポート」を書く。 *「言葉の力 テーマを設定する／レポートの構成を工	【知技】・原因と結果、考えと根拠など情報と情報との関係について理解している。 【知技】・比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。

<p>6時間</p> <p>他家庭</p>		<p>実や自分の考えがよく伝わるように、分かりやすい構成でレポートを書く。</p>	<p>夫する」(P71, 73)を読んで、テーマを設定したり、分かりやすい構成でまとめたりするためのポイントを確認する。</p> <p>*資「話すこと・書くこと 題材例」(P296~297)を見て、テーマ設定の参考にするのもよい。</p> <p>*資「発想・整理の方法」(P298)を見て、材料を集めたり整理したりする際の参考にするのもよい。</p> <p>3 「振り返り」(P74)を読み、学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>[思判表] ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。</p> <p>[思判表] ◎「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。</p> <p>[主]・積極的にテーマを考え、情報を収集・整理し、学習の見通しを持って、分かりやすい構成でレポートを書こうとしている。</p>
<p>言葉〈文法の窓／文法解説〉 文の成分・連文節—— 文節をつなぐ見えない糸</p> <p>P77／P253 2時間</p>	<p>[知技] (1)エ</p>	<p>・文の成分や、連文節、文節どうしの関係について理解する。</p>	<p>1 教材(P77)を読んで、文節どうしの関係を考える。また、「考えよう」に取り組む。</p> <p>2 基「文の成分・連文節」(P253~257)を読んで、文の成分や、連文節、文節どうしの関係について理解を深める。また、「問題」1~2(P257)に取り組む。</p> <p>*Dこの教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	<p>[知技] ◎文の成分や、連文節、文節どうしの関係について理解している。</p> <p>[主]・進んで文の成分や、連文節、文節どうしの関係について理解し、学習課題に沿って学んだことを話や文章の中で生かそうとしている。</p>
<p>言葉〈漢字道場〉 音読み・訓読み</p> <p>P78 1時間</p>	<p>[知技] (1)イ</p>	<p>・漢字の音読みと訓読みについて理解し、漢字を文や文章の中で使う。</p>	<p>1 「漢字の音読み」(P78)を読んで、音読みについて理解し、「問題」①~②に取り組む。</p> <p>2 「漢字の訓読み」(P78~79)を読んで、訓読みについて理解し、「問題」③~④に取り組む。</p>	<p>[知技] ◎漢字の音読みと訓読みについて理解し、漢字を文や文章の中で使っている。</p> <p>[主]・進んで漢字の音読みと訓読みについて理解し、学習課題に沿って学んだことを文や文章の中で生かそうとしている。</p>
<p>読む〈読書〉 碑</p> <p>P80 2時間</p> <p>他社会(歴史)</p>	<p>[知技] (3)オ [思判表] C(1)オ 活 C(2)ウ</p>	<p>・さまざまな本や資料で調べ、知識を広げたり考えを深めたりする。</p>	<p>1 タイトル下の問いかけ(P80)と「図書館で調べよう」(P94)を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <p>2 「碑」全文を通読し、感じたことや考えたことを、話し合う。適宜、漢字を確認する。</p> <p>3 「図書館で調べよう」を参考に、分からない言葉や知りたくなったことについて調べ、伝え合う。</p> <p>*「情報活用コラム 本や資料を使って調べる」を読み、目次や索引の活用の仕方を確かめる。</p>	<p>[知技] ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。</p> <p>[思判表] ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。</p> <p>[主]・進んで読書の役割について理解を深め、これまでの学習を生かして、さまざまな本や資料で調べようとしている。</p>

			<p>* これまでに読んだ本や「本で世界を広げよう（戦争・平和）」（P92～93）で紹介されている本を活用してもよい。</p> <p>* <b>資</b>「私のおすすめの本」（P287）、「本の世界を楽しもう」（P288～291）を見て、今後の読書生活の参考にするのもよい。</p>	
4 考えをまとめる（9～10月 21時間）				
<p>学びの扉／学びを支える言葉の力（論理的な言葉の力——分析する力） 事実と考えを区別する P96／P230 1時間</p>	<p>[<b>知技</b>] (2)ア [<b>思判表</b>] C(1)ア</p>	<p>・事実と考え、推測と意見の違いを理解し、それらを区別して文章の内容を捉える。</p>	<p>1 教材（P96）を読んで、理奈の発言の何がよくなったのかを考える。</p> <p>2 <b>基</b>「事実と考えを区別する」（P230～233）を読んで、事実と考え、推測と意見の違いについて理解を深め、それらを区別して文章の内容を捉える。</p> <p>* <b>D</b>この教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	<p>[<b>知技</b>] ◎事実と考え、推測と意見の違いについて理解している。</p> <p>[<b>思判表</b>] ◎「読むこと」において、事実と考え、推測と意見の違いなどについて叙述をもとに捉えている。</p> <p>[<b>主</b>]・進んで事実と考え、推測と意見の違いを理解し、学習課題に沿って文章の内容を捉えようとしている。</p>
<p>読む（吟味・判断） 私のタンポポ研究 P97 5時間</p>	<p>[<b>知技</b>] (1)ウ(2)アイ [<b>思判表</b>] C(1)アウ <b>活</b> C(2)ア</p>	<p>・事実から筆者がどのように考えを導いているかを捉える。</p> <p>・必要な情報を取り出して要約する。</p>	<p>1 タイトル下の問いかけ（P97）や「てびき」の目標（P104）を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <p>2 全文を通読し、内容を大まかにつかむ。適宜、漢字や語句を確認する。</p> <p>3 設問①～②（P104）に取り組み、事実と筆者の考えとを読み分けながら文章の展開を捉える。また、筆者がどのようにして事実から考えを導いているかを捉える。</p> <p>*「言葉の力 事実と考えとの関係を捉える」を読んで、事実と考えの違いやその関係について理解する。</p> <p>*前の「事実と考えを区別する」（P96／<b>基</b>P230～233）で学んだことを生かして取り組むとよい。</p> <p>4 設問③に取り組み、文章から必要な情報を取り出しながら要約する。</p> <p>* <b>資</b>「要約の仕方」（P284～286）を見て、要約する際</p>	<p>[<b>知技</b>]・行為を表す語句の量を増すとともに、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>[<b>知技</b>]・考えと根拠など情報と情報との関係について理解している。</p> <p>[<b>知技</b>]・比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。</p> <p>[<b>思判表</b>] ◎「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と考えとの関係などについて叙述をもとに捉え、要旨を把握している。</p> <p>[<b>思判表</b>] ◎「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。</p> <p>[<b>主</b>]・進んで事実と筆者の考えとの関係を捉え、学習課題に沿って、必要な情報を取り出して要約しようとしている。</p>

			<p>の参考にするのもよい。</p> <p>5 「振り返り」を読み、学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p> <p>6 「広がる言葉」(P105)に取り組み、語感を磨き語彙を増やす。</p> <p>*<b>資</b>「言葉を広げよう——行為を表す言葉」(P330)を見て、語彙を増やすための参考にするるとよい。</p>	
<p>学びの扉／学びを支える言葉の力〈論理的な言葉の力——議論する力〉</p> <p>根拠を挙げて考えを述べる</p> <p>P106／P234</p> <p>1時間</p>	<p><b>[知技]</b> (2)ア</p> <p><b>[思判表]</b> B(1)ウ</p>	<p>・考えと根拠との関係を理解し、根拠を明確にして文章を書く。</p>	<p>1 教材(P106)を読んで、なぜ水かけ論になってしまうのかを考える。</p> <p>2 <b>基</b>「根拠を挙げて考えを述べる」(P234～237)を読んで、考えと根拠との関係について理解を深め、根拠を明確にして文章を書く。</p> <p>*<b>D</b>この教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	<p><b>[知技]</b> ◎考えと根拠との関係について理解している。</p> <p><b>[思判表]</b> ◎「書くこと」において、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。</p> <p><b>[主]</b> ・進んで考えと根拠との関係を理解し、学習課題に沿って、根拠を明確にして文章を書こうとしている。</p>
<p>書く〈論証・説得〉</p> <p>根拠を明確にして書こう——「写真」の意見文</p> <p>P107</p> <p>6時間</p>	<p><b>[知技]</b> (2)アイ</p> <p><b>[思判表]</b> B(1)ウオ</p> <p><b>活</b> B(2)ア</p>	<p>・説得力のある根拠を考え、根拠を明確に示して自分の意見を書く。</p> <p>・根拠の明確さなどについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の意見文のよい点や改善点を見いだす。</p>	<p>1 教材冒頭(P107)の問いかけと目標を確認し、「学習の流れ」を見て、見通しを持つ。</p> <p>2 手順①～④(P108～110)を読んで、根拠を明確にした意見文の書き方を確認する。</p> <p>*手順②で、「新聞記事」の写真A・Bそれぞれの長所・短所を考えてみるのもよい。</p> <p>*「言葉の力 根拠を示す／読んで確かめ合う」(P109, 110)を読んで、根拠の示し方や、感想交換のポイントを確かめる。</p> <p>*前の「根拠を挙げて考えを述べる」(P106/<b>基</b>P234～237)で学んだことを生かして取り組むとよい。</p> <p>3 手順①～④に従って「問題」(P111)に取り組み、根拠を明確にした意見文を書く。</p> <p>4 「振り返り」(P111)を読み、学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>[知技]</b> ・意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。</p> <p><b>[知技]</b> ・比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。</p> <p><b>[思判表]</b> ◎「書くこと」において、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。</p> <p><b>[思判表]</b> ◎「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。</p> <p><b>[主]</b> ・根拠を明確にしたり、読み手の助言を踏まえて改善点を見いだしたりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しを持って意見文を書こうとしている。</p>

<p>話す・聞く〈話す〉 中心を明確にして話そう——「似ている言葉」スピーチ</p> <p>P 112 5 時間</p>	<p>[<b>知技</b>] (1)ウ(2)アイ [<b>思判表</b>] A(1)イウ ㊦ A(2)ア</p>	<p>・話の中心を明確にし、事実と考えとの関係に注意して、構成を考える。</p> <p>・聞き手の反応を見ながら、分かりやすい話し方を工夫する。</p>	<p>1 教材冒頭 (P 112) の問いかけと目標を確認し、「学習の流れ」を見て、見通しを持つ。</p> <p>2 手順①～⑤ (P 113～117) に取り組み、似ている言葉について調べ、話の中心を明確にしてスピーチをする。</p> <p>*「言葉の力 話の中心を明確にして、構成を考える／聞き手の反応を見ながら話す」(P 115, 116) を読んで、分かりやすい構成や話し方のポイントを確かめる。</p> <p>*<b>資</b>「言葉を広げよう」(P 328～331) を見て、似ている言葉を探す際の参考にするのもよい。</p> <p>3 「振り返り」(P 117) を読み、学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p> <p>*<b>D</b>この教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	<p>[<b>知技</b>]・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>[<b>知技</b>]・考えと根拠など情報と情報との関係について理解している。</p> <p>[<b>知技</b>]・比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方について理解を深め、それらを使っている。</p> <p>[<b>思判表</b>] ◎「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と考えとの関係などに注意して、話の構成を考えている。</p> <p>[<b>思判表</b>] ◎「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。</p> <p>[<b>主</b>]・話の中心を明確にすることに粘り強く取り組み、学習の見通しを持って、聞き手にとって分かりやすいスピーチをしようとしている。</p>
<p>言葉〈日本語探検〉 方言と共通語——全国のグルメ祭りに行こう</p> <p>P 118 1 時間</p>	<p>[<b>知技</b>] (3)ウ</p>	<p>・方言と共通語の果たす役割について理解する。</p>	<p>1 教材 (P 118～119) を読んで、方言と共通語が話や文章の中でどのように使われているかを大まかにつかむ。</p> <p>2 「まとめ」(P 119) を読んで、方言と共通語の果たす役割について理解する。適宜、漢字を確認する。</p>	<p>[<b>知技</b>]◎方言と共通語の果たす役割について理解している。</p> <p>[<b>主</b>]・進んで方言と共通語の果たす役割について理解し、見通しを持って学んだことを話や文章の中で生かそうとしている。</p>
<p>言葉〈漢字道場〉 漢字の部首</p> <p>P 120 1 時間</p> <p><b>他</b>書写</p>	<p>[<b>知技</b>] (1)イ</p>	<p>・漢字の部首とその意味について理解し、漢字を文や文章の中で使う。</p>	<p>1 「部首とその意味」(P 120) を読んで、部首とその意味について理解し、「問題」① (P 121) に取り組む。</p> <p>2 「形の変化」(P 121) を読んで、部首の形とよび名について理解し、「問題」②に取り組む。</p> <p>3 「紛らわしい部首」(P 121) を読んで、形が似ていて紛らわしい部首について知り、「問題」③に取り組む。</p>	<p>[<b>知技</b>]◎漢字の部首とその意味について理解し、漢字を文や文章の中で使っている。</p> <p>[<b>主</b>]・進んで漢字の部首とその意味について理解し、学習課題に沿って学んだことを文や文章の中で生かそうとしている。</p>

			む。	
読む〈詩（日本語のしらべ）〉 月夜の浜辺 P 122 1時間	【知技】(1)オ 【思判表】C(1) イ ㊦ C(2)イ	・詩の中の言葉から情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。	1 全文を通読し、内容を大まかにつかむ。 2 詩の中の言葉から情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。 3 「詩人と作品」(P 124)を読み、中原中也について知る。	【知技】・反復などの表現の技法を理解している。 【思判表】◎「読むこと」において、場面の展開や人物の心情などについて、描写をもとに捉えている。 【主】・進んで詩に描かれた情景や心情を捉え、学習課題に沿って朗読しようとしている。
5 伝統文化に親しむ (10～11月 17時間)				
古典 移り行く浦島太郎の物語 P 126 1時間	【知技】(3)イ 【思判表】C(1) オ	・古典にはさまざまな種類の作品があることを知る。	1 タイトル下の問いかけ (P 126)を見て、学習の見通しを持つ。 2 「移り行く浦島太郎の物語」の本文 (P 126～128)を読み、現代に受け継がれる古典の世界に興味・関心を持つ。適宜、漢字を確認する。 3 「中学校3年間で学ぶ古典作品」(P 129)を見て、古典にはさまざまな種類の作品があることを知る。 *【資】「さまざまな古典作品」(P 292～295)で紹介されている古典作品に触れるのもよい。	【知技】◎古典にはさまざまな種類の作品があることを理解している。 【思判表】◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。 【主】・進んで文章を読んで古典の世界に親しみ、見通しを持って、古典を学ぶ意味について考えを持つようとしている。
古典 伊曾保物語 P 130 3時間 他社会 (歴史)	【知技】(3)エ 【思判表】C(1) エ	・歴史的仮名遣いに注意して音読し、古文の読み方に慣れる。 ・文章の構成などの特徴について考える。	1 タイトル下の問いかけ (P 130)や「てびき」の目録 (P 134)を確認し、学習の見通しを持つ。 2 「伊曾保物語」の解説 (P 130～131)を読み、作品の成り立ちや概要を知る。適宜、漢字を確認する。 3 「鳩と蟻のこと」(P 132～133)を読み、内容を大まかにつかむ。適宜、漢字を確認する。 4 設問① (P 134)に取り組み、音読を通して古文の読み方に慣れる。 *「古典コラム 古典の仮名遣い」を適宜参照し、歴史的仮名遣いについて確認する。 5 設問②～③に取り組み、古文の内容を正確に読み取り、作品の特徴について考える。 6 「振り返り」を読み、学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。	【知技】◎音読に必要な文語の決まりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 【思判表】◎「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 【主】・進んで音読して古典の世界に親しみ、学習課題に沿って、文章の構成などの工夫について考えをまとめようとしている。

			<p>*<b>D</b>この教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	
<p>古典 竹取物語</p> <p>P 135 4 時間</p> <p><b>他</b>社会（歴史）</p>	<p>【知技】(3)ア 【思判表】C(1) オ</p>	<p>・現代語とは異なる言葉や表現に注意して音読し、古典の世界に触れる。</p> <p>・古典の作品に描かれた人間の心のありようについて考える。</p>	<p>1 タイトル下の問いかけ（P135）や「てびき」の目標（P143）を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <p>2 「竹取物語」の解説（P135）を読み、作品の成り立ちや概要を知る。適宜、漢字を確認する。</p> <p>3 冒頭（P136）を読み、内容を大まかにつかむ。適宜、漢字を確認する。</p> <p>4 設問①（P143）に取り組み、冒頭を音読・暗唱することを通して古文を読み味わう。</p> <p>*「古典コラム 古典の言葉とその意味」を適宜参照し、現代語と異なる古典の言葉とその意味を確認する。</p> <p>5 「かぐや姫の昇天」まで（P137～142）を読み、内容を大まかにつかむ。適宜、漢字を確認する。</p> <p>6 設問①に取り組み、「かぐや姫の昇天」を音読・暗唱することを通して古文を読み味わう。</p> <p>7 設問②～③に取り組み、文章の展開に即して登場人物の心情を読み取り、作品に描かれた人間の心のありようについて話し合う。</p> <p>8 「振り返り」を読み、学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p> <p>*<b>D</b>この教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	<p>【知技】◎音読に必要な文語の決まりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。</p> <p>【思判表】◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。</p> <p>【主】・進んで音読して古典の世界に親しみ、学習課題に沿って、古典に描かれた人間の心のありようについて話し合おうとしている。</p>
<p>古典 矛盾</p> <p>P 144 3 時間</p>	<p>【知技】(3)ア 【思判表】B(1) ア, C(1)エ,</p>	<p>・漢文特有のリズムを味わい、訓読に必要な決まりを知る。</p> <p>・故事成語について調べ、体験や出来事</p>	<p>1 タイトル下の問いかけ（P144）や「てびき」の目標（P146）を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <p>2 故事成語の解説（P144）を読み、故事成語とは何かを知る。適宜、漢字を確認する。</p> <p>*「古典コラム 故事成語の例」（P146）の内容にも触</p>	<p>【知技】◎音読に必要な訓読の仕方を知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。</p> <p>【思判表】◎「書くこと」において、目的や意図に応じて題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを</p>

		を文章にまとめる。	<p>れ、取り上げられている語の意味と由来を確認する。</p> <p>3 「矛盾」の書き下し文（P144～145）を読み、内容を大まかにつかむ。適宜、漢字を確認する。</p> <p>4 設問①～②（P146）に取り組み、音読を通して漢文のリズムに慣れ、漢文を日本語として読むための工夫について知る。</p> <p>*「古典コラム 漢文の読み方」（P147）を適宜参照し、訓読に必要な決まりを確認する。</p> <p>5 設問③～④に取り組み、「矛盾」の故事の内容を正確に読み取り、他の故事成語の意味や由来を調べ、それに当てはまる体験や出来事を文章にまとめる。</p> <p>6 「振り返り」を読み、学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p> <p>*<b>D</b>この教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	<p>明確にしている。</p> <p><b>[思判表]</b>・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について考えている。</p> <p><b>[主]</b>・進んで音読して漢文特有のリズムを味わい、学習課題に沿って、故事成語について調べて自分の考えを文章にまとめようとしている。</p>
<p>書く（通信・手紙） 案内や報告の文章を書こう</p> <p>P148 3時間</p> <p><b>他</b>書写</p>	<p><b>[思判表]</b> B(1) ア</p> <p><b>活</b> B(2)イ</p>	<p>・伝える相手や目的に応じて、必要な情報を選び出してまとめる。</p>	<p>1 教材冒頭（P148）の問いかけと目標を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <p>2 手順①～②（P148～149）に取り組み、合唱祭の案内状と結果報告の記事を書く。</p> <p>*「言葉の力 掲載する情報を選択する」（P149）を読んで、情報を選択する際のポイントを確かめる。</p> <p>3 「振り返り」（P149）を読み、学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>[思判表]</b> ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。</p> <p><b>[主]</b>・積極的に掲載する情報を選択し、学習課題に沿って案内や報告の文章を書こうとしている。</p>
<p>言葉（日本語探検） 語の意味と文脈・多義語——幻のキノコを「とり」に行こう</p> <p>P150 1時間</p>	<p><b>[知技]</b> (1)ウ</p>	<p>・語のさまざまな意味や、文脈の働き、多義語について理解する。</p>	<p>1 教材（P150～151）を読んで、語のさまざまな意味の違いや、文脈の働きなどが、話や文章の中でどのように表れているかを大まかにつかむ。</p> <p>2 「まとめ」（P151）を読んで、語のさまざまな意味や、文脈の働き、多義語について理解する。適宜、漢字を確認する。</p>	<p><b>[知技]</b> ◎語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p><b>[主]</b>・進んで語のさまざまな意味や、文脈の働き、多義語について理解し、見通しを持って学んだことを話や文章の中で生かそうとしている。</p>

<p>言葉〈文法の窓／文法解説〉 単語の分類——単語分類マシンを完成させよう</p> <p>P 152／P 258 2 時間</p>	<p>【知技】(1)エ</p>	<p>・単語の類別について理解する。</p>	<p>1 教材 (P152) を読んで、単語の分類の仕方について理解する。また、「考えよう」に取り組む。</p> <p>2 基「単語の分類」(P258～261) を読んで、単語の分類の仕方や、それぞれの品詞の特徴、働きについて理解を深める。また、「問題」1～2 (P261) に取り組む。</p> <p>*Dこの教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	<p>【知技】◎単語の類別について理解している。</p> <p>【主】・進んで単語の類別について理解し、学習課題に沿って学んだことを話や文章の中で生かそうとしている。</p>
<p>6 作品を読み解く (11～12月 11時間)</p>				
<p>読む〈文学二〉 少年の日の思い出</p> <p>P 154 6 時間</p>	<p>【知技】(1)ウ 【思判表】C(1) ウエ ④C(2)イ</p>	<p>・さまざまな場面での人物や情景の描写に着目して、作品を読み深める。</p> <p>・作品の構成の工夫や表現の効果について考える。</p>	<p>1 タイトル下の問いかけ (P154) や「てびき」の目標 (P167) を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <p>2 全文を通読し、内容を大まかにつかむ。適宜、漢字や語句を確認する。</p> <p>3 設問①～④ (P167) に取り組む、場面の展開を捉え、人物や情景を描いた表現に着目して作品を読み深める。</p> <p>4 設問⑤に取り組む、伏線を探し、この小説の構成の工夫について話し合う。</p> <p>*「言葉の力 伏線に着目する」を読んで、伏線について理解する。</p> <p>5 「振り返り」を読み、学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p> <p>6 「広がる言葉」(P168) に取り組む、語感を磨き語彙を増やす。</p> <p>*資「言葉を広げよう——心情を表す言葉」(P330～331) を見て、語彙を増やすための参考にするとよい。</p>	<p>【知技】・心情を表す語句の量を増すとともに、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>【思判表】◎「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。</p> <p>【思判表】◎「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。</p> <p>【主】・進んでさまざまな場面の描写をもとに作品を読み深め、学習課題に沿って、作品の構成の工夫や表現の効果について話し合おうとしている。</p>
<p>書く〈描写・表現〉 視点を変えて心情を描こう</p>	<p>【知技】(1)ウ 【思判表】B(1) エ</p>	<p>・視点を決め、人物の心情などを描き出すため、ふさわしい</p>	<p>1 目標 (P169) を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <p>2 教材を読み、別の登場人物の立場から場面を書き換える。</p>	<p>【知技】・心情を表す語句の量を増すとともに、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p>

<p>P169 1時間</p> <p>㊦ B(2)ウ</p>		<p>言葉を選んで文章を練りあげる。</p>	<p>*「言葉の力 視点を決めて書く」を読んで、視点を決めて描写するためのポイントを確認する。</p> <p>*㊦「言葉を広げよう——心情を表す言葉」(P330～331)を見て、登場人物の心情を考えたり表現したりする際の参考にすることもよい。</p> <p>3 「振り返り」を読み、学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>[思判表] ◎「書くこと」において、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えている。</p> <p>[主] ・進んで視点を決めて心情を描き、学習課題に沿って、ふさわしい言葉を選んで文章を練りあげようとしている。</p>
<p>言葉〈文法の窓／文法解説〉 名詞——「名前」はいろいろ</p> <p>P170／P262 1時間</p>	<p>[知技] (1)エ</p>	<p>・名詞の種類について理解する。</p>	<p>1 教材(P170)を読んで、名詞を五種類に分類する。適宜、漢字を確認する。</p> <p>2 ㊦「名詞」(P262～263)を読んで、五種類の名詞や、名詞の成り立ちについて理解を深める。また、「問題」1～2(P263)に取り組む。</p> <p>*㊦この教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	<p>[知技] ◎名詞の種類について理解している。</p> <p>[主] ・進んで名詞の種類について理解し、学習課題に沿って学んだことを話や文章の中で生かそうとしている。</p>
<p>言葉〈漢字道場〉 他教科で学ぶ漢字</p> <p>P171 1時間</p> <p>㊦社会・理科・技術・家庭・保健体育</p>	<p>[知技] (1)イ</p>	<p>・他教科で学ぶ語句に用いられる漢字について理解し、漢字を文や文章の中で使う。</p>	<p>1 問題(P171)に取り組み、社会、理科、技術、家庭、保健体育で学ぶ語句に用いられる漢字を確認する。</p> <p>*他教科の教科書を適宜参照し、その漢字が含まれる語句を学ぶ時期や、その漢字が使われている文脈を確認することもよい。</p>	<p>[知技] ◎他教科で学ぶ語句に用いられる漢字について理解し、漢字を文や文章の中で使っている。</p> <p>[主] ・進んで他教科で学ぶ語句に用いられる漢字について理解し、学習課題に沿って学んだことを文や文章の中で生かそうとしている。</p>
<p>読む〈読書〉 風を受けて走れ</p> <p>P172 2時間</p> <p>㊦道徳・保健体育・書写</p>	<p>[知技] (2)イ, (3)オ</p> <p>[思判表] C(1)オ</p> <p>㊦ C(2)ア</p>	<p>・読んだ本を紹介し合い、知識を広げたり考えを深めたりする。</p>	<p>1 タイトル下の問いかけ(P172)と「本のポップを作ろう」(P182)を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <p>2 「風を受けて走れ」全文を通読し、最も印象に残ったことを話し合う。適宜、漢字を確認する。</p> <p>3 「本のポップを作ろう」を参考に、「風を受けて走れ」や、福祉・共生に関する、おすすめの本のポップを作り、その本の魅力を伝え合う。</p> <p>*これまでに読んだ本や、「本で世界を広げよう〈福祉・</p>	<p>[知技] ・引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。</p> <p>[知技] ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。</p> <p>[思判表] ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。</p> <p>[主] ・進んで読書の役割について理解を深め、これま</p>

			<p>共生)」(P180～181)で紹介されている本を活用してもよい。</p> <p>*<b>資</b>「私のおすすめの本」(P287),「本の世界を楽しもう」(P288～291)を見て,今後の読書生活の参考にすることもよい。</p> <p>*<b>D</b>この教材には,関連するデジタルコンテンツが用意されているので,適宜利用するとよい。</p>	<p>での学習を生かして,おすすめの本のポップを作ろうとしている。</p>
7 表現を考える(1～3月 25時間)				
<p>読む〈言葉とメディア〉 ニュースの見方を考えよう</p> <p>P184 5時間</p>	<p><b>[知技]</b>(1)ウ,(2)イ <b>[思判表]</b>B(1)ア, C(1)オ <b>(活)</b>C(2)ア</p>	<p>・文章を読み,ニュースを比べて,ニュースの見方について自分の考えを持つ。</p> <p>・意図に応じて材料を選び,ニュースを編集する。</p>	<p>1 タイトル下の問いかけ(P184)や「てびき」の目録(P190)を確認し,「学習の流れ」(P184)を見て,見通しを持つ。</p> <p>2 全文を通読し,内容を大まかにつかむ。適宜,漢字や語句を確認する。</p> <p>3 設問①～②(P186,189)に取り組み,文章の内容を読み取る。</p> <p>4 設問③(P190)に取り組み,文章から読み取った内容を踏まえて,ニュースを読み比べ,印象の違いについて考える。</p> <p>5 設問④に取り組み,意図に応じて材料を選び,実際にニュースを編集してみる。</p> <p>6 設問⑤に取り組み,ニュースの見方について話し合う。</p> <p>*「言葉の力 情報を見極める」を読んで,情報を見極めるためのポイントを理解する。</p> <p>7 「振り返り」を読み,学習を振り返って,学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>[知技]</b>・事象や行為,心情を表す語句の量を増すとともに,話や文章の中で使うことを通して,語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p><b>[知技]</b>・比較や分類,関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め,それらを使っている。</p> <p><b>[思判表]</b>◎「書くこと」において,目的や意図に応じて材料を整理し,伝えたいことを明確にしている。</p> <p><b>[思判表]</b>◎「読むこと」において,文章を読んで理解したことに基づいて,自分の考えを確かなものにしていく。</p> <p><b>[主]</b>・積極的にニュースを編集し,学習課題に沿って,ニュースの見方について考えを持つようとしている。</p>
<p>学びの扉／学びを支える言葉の力〈論理的な言葉の力——整理する力〉</p>	<p><b>[知技]</b>(2)イ <b>[思判表]</b>A(1)ア</p>	<p>・分類や比較の仕方を理解し,情報を整理する。</p>	<p>1 教材(P192)を読んで,情報をまとめられなかったり,選択を迷ったりしたときにはどうしたらよいかを考える。</p>	<p><b>[知技]</b>◎分類や比較などの情報の整理の仕方について理解を深め,それらを使っている。</p> <p><b>[思判表]</b>◎「話すこと・聞くこと」において,目的や</p>

分類する・比較する P 192／P 226 1 時間			2 <b>基</b> 「分類する・比較する」(P 226～229)を読んで、分類や比較の仕方について理解を深め、情報を整理する。  * <b>D</b> この教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。	場面に応じて材料を整理している。 <b>[主]</b> ・進んで分類や比較の仕方を理解し、学習課題に沿って情報を整理しようとしている。
話す・聞く〈話し合う〉 話し合いで理解を深めよう——グループディスカッション  P 193 5 時間	<b>[知技]</b> (2)イ <b>[思判表]</b> A(1)アオ  <b>活</b> A(2)イ	・お互いの体験や考えを出し合って整理する。 ・話し合いの展開に注意し、お互いの発言を結び付けて、考えをまとめる。	1 教材冒頭 (P 193) の問いかけと目標を確認し、「学習の流れ」を見て、見通しを持つ。 2 手順①～④ (P 194～198) に取り組み、身の回りの物事のよさについて話し合い、グループの考えをまとめる。 *「言葉の力 話し合いで材料を出し合い、整理する／お互いの発言を結び付けて、考えをまとめる」(P 194, 196) を読んで、話し合いで材料を集めて整理したり、考えをまとめたりする際のポイントを確認する。 *前の「分類する・比較する」(P 192／ <b>基</b> P 226～229) で学んだことを生かして取り組むとよい。 * <b>資</b> 「発想・整理の方法」(P 298) を見て、発想を広げたり考えを整理したりする際の参考にするのもよい。 3 「振り返り」(P 198) を読み、学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。	<b>[知技]</b> ・比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。 <b>[思判表]</b> ◎「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 <b>[思判表]</b> ◎「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。 <b>[主]</b> ・積極的に話題に関連する体験や考えを出し合い、学習の見通しを持って、考えをまとめるために話し合おうとしている。
書く〈感性・想像〉 心に残る出来事を表現しよう——日常生活から生まれる随筆  P 199 6 時間	<b>[知技]</b> (1)ウオ <b>[思判表]</b> B(1)アウ  <b>活</b> B(2)ウ	・日常生活の中から題材を決め、伝えたい出来事と思いを明確にする。 ・出来事と思いがよく伝わるように、表現を工夫して随筆を書く。	1 教材冒頭 (P 199) の問いかけと目標を確認し、「学習の流れ」を見て、見通しを持つ。 2 手順①～⑤ (P 200～204) に取り組み、日常生活を題材にした随筆を、表現を工夫して書く。 *「言葉の力 題材を見つける／工夫して随筆を書く」(P 202, 203) を読んで、題材の見つけ方や、随筆の書き方のポイントを確認する。 * <b>資</b> 「言葉を広げよう——心情を表す言葉」(P 330～331) を見て、心情を表現する際の参考にするのもよい。	<b>[知技]</b> ・心情を表す語句の量を増すとともに、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 <b>[知技]</b> ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。 <b>[思判表]</b> ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 <b>[思判表]</b> ◎「書くこと」において、自分の考えが伝わ

			い。 3 「振り返り」(P204)を読み、学習を振り返って、学んだことを自分の言葉でまとめる。	る文章になるように工夫している。 [主]・積極的に題材を見つけ、学習の見通しを持って、表現を工夫しながら随筆を書こうとしている。
言葉〈文法の窓／文法解説〉 連体詞・副詞・接続詞・感動詞——「桃太郎」を修復せよ P205／P264 1時間	[知技] (1)エ	・連体詞・副詞・接続詞・感動詞の種類や働きについて理解する。	1 教材(P205)を読んで、ルールに従って、空欄に入る言葉を考える。また、「考えよう」に取り組む。適宜、漢字を確認する。 2 [基]「連体詞・副詞・接続詞・感動詞」(P264～266)を読んで、連体詞・副詞・接続詞・感動詞の種類や働きについて理解を深める。また、「問題」①～③(P266)に取り組む。 * [D]この教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。	[知技] ◎連体詞・副詞・接続詞・感動詞について理解している。 [主]・進んで連体詞・副詞・接続詞・感動詞について理解し、学習課題に沿って学んだことを話や文章の中で生かそうとしている。
言葉〈漢字道場〉 漢字の成り立ち P206 1時間 [他]書写	[知技] (1)イ	・漢字の成り立ちについて理解し、漢字を文や文章の中で使う。	1 教材(P206～207)を読んで、漢字の成り立ちや使い方による六通りの分類について理解し、「問題」①～⑥に取り組む。	[知技] ◎漢字の成り立ちについて理解し、漢字を文や文章の中で使っている。 [主]・進んで漢字の成り立ちについて理解し、学習課題に沿って学んだことを文や文章の中で生かそうとしている。
読む〈詩(詩の言葉)〉 わたしの中にも P208 2時間	[知技] (1)オ [思判表] C(1) イオ [活] C(2)イ	・詩に描かれた情景や心情を的確に捉える。 ・詩を読んで理解したことをもとに、考えを深める。	1 全文を通読し、内容を大まかにつかむ。 2 詩の中の言葉から、それぞれの連に描かれた情景や心情を捉え、どんな印象を受けるかを考える。 3 詩を読んで、気づいたことや考えたことを話し合う。	[知技] 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解している。 [思判表] ◎「読むこと」において、場面の展開や人物の心情などについて、描写をもとに捉えている。 [思判表] ◎「読むこと」において、詩を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。 [主]・進んで詩に描かれた情景や心情を捉え、学習課題に沿って、気づいたことや考えたことを話し合おうとしている。
読む〈読書〉	[知技] (3)オ	・文学作品を読み、情	1 タイトル下の問いかけ(P210)を確認し、学習の	[知技] ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを

<p>トロッコ</p> <p>P 210 4 時間</p> <p>他社会（歴史）</p>	<p>【思判表】 C(1)</p> <p>エ</p> <p>活 C(2)イ</p>	<p>景描写などの表現の効果について考える。</p>	<p>見通しを持つ。</p> <p>2 全文を通読し、内容を大まかにつかむ。適宜、漢字を確認する。</p> <p>3 さまざまな情景の描写がどのような効果をあげているか、話し合う。</p> <p>4 「作家と作品」（P 218～219）を読み、芥川龍之介について知る。</p> <p>5 「名作を読もう」（P 220～221）を見て、日本や海外の文学作品を知り、読書意欲を高める。</p> <p>*資「私のおすすめの本」（P 287）、「本の世界を楽しもう」（P 288～291）を見て、今後の読書生活の参考にすることもよい。</p>	<p>広げたりすることに役立つことを理解している。</p> <p>【思判表】◎「読むこと」において、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。</p> <p>【主】・進んで読書の役割について理解を深め、これまでの学習を生かして、さまざまな本を読もうとしている。</p>
--	---	----------------------------	---	---